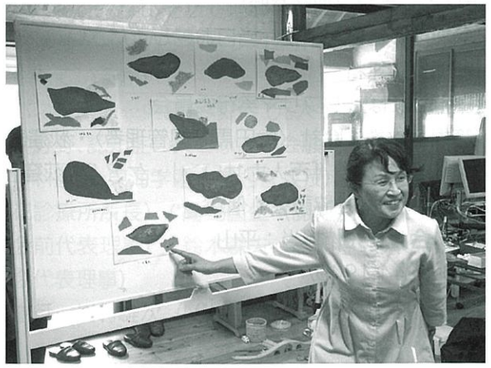
臨床美術の現場から ㊸

デイサービスでの臨床美術活動のもつ力

■株式会社フロー・ライフ
デイサービス じりつ
【福岡県北九州市】

❖作業で元気になる

デイサービス じりつ（以下「じりつ」）は、北九州の小倉南区に位置し、今年10年目を迎えます。「じりつ」は作業療法士の資格を持った4人家族で創設され、作業を通して自分らしさを取り戻すことをコンセプトに日々活動をしています。私は昔から絵を描くことやモノづくりが大好きで、芸術の道を志したこともありました。作業療法士はその想いを生かすことができる仕事でもあり、現在は「じりつ」で、病気や障害のある方に絵手紙教室や貼り絵グループなどを主催し、さまざまな手芸やモノづくりを通して心と体のリハビリを行っています。「人は作業で元気になる」、ということは作業療法士の合言葉です。筋トレだけでは、その人らしさや、その人の魂は取り戻すことはできません。そこで「じりつ」ではその人にとって興味のある、意味のある作業に取り組むことで、わくわくする時間を紡いでいます。



❖作業療法と臨床美術の出会い

私は友人の勧めで臨床美術と出会いました。それは、私にとって、とても運命的な出会いでした。一度は目指した芸術の世界にまたつながったことがとてもうれしく、資格取得にいたりました。きっと「じりつ」でも、利用者たちがとりくむことで、何かすごいことが起こりそう、と予感がしました。

高齢者は難しいことは苦手、かといって、簡単なことをすることは自尊心を傷つけます。私たちが作業を準備する際、このことに大いに気をつけ、完成作品は幼稚でなく、クオリティの高いものを目指しています。臨床美術の作品は言うまでもなく、どれも胸が躍るような作品ばかりです。手順の一つ一つは取り組みやすいのに、ちょっとしたプロのエッセンスで、きらりと輝く作品になる、それが、作業療法のコンセプトと大変にマッチすると直感しました。

❖高齢者や障害をもっても生きがいを

「じりつ」では、毎月1回、臨床美術士の藤澤典子先生をお招きし、私はサポートを行っています。「じりつ」で臨床美術を始めて今年で6年目ですが、さまざまな作業が繰り広げられている「じりつ」の中でも、臨床美術の時間はちょっと特別な時間です。今まで見たこともない作品に毎回利用者は目を輝かせます。一方で「私にできるかな」と最初は及び腰になることもありますが、すぐに世界に没頭していくから不思議です。参加者は認知症、聴覚障害、視覚障害、麻痺、手足のしびれ、高齢による廃用症候群の方など、さまざまな状況の方ですが、難しい場面があった際は、作業療法士の観点からサポートしています。その際、臨床美術士として先生やプログラムの意図を汲みながらサポートをしています。参加された方々はどなたも「本当に私が作ったと思えない!」と驚き喜ばれます。それが新たな生きがいとなり、次の挑戦を生み、日々を生き抜く原動力となっています。

「アジの干物」を作成した際、ある認知症を呈した男性が、夢中になって書き込んでいたことがありました。普段、できることが少なくなっていた方ですが、もともとの芸術への想いや知性をすべて注いだような作品となり、忘れられない作品の一つです。教室の最後にはみんなでお互いの絵を見せ合い、なんだか連帯感のような、絆のようなものも生まれ、「今日来てよかった!　本当に楽しい!」と話されています。また、作品を見て、本人だけでなく、家族もその作品の力に驚かれます。家族と疎遠になっていた方が、作品をきっかけに会話が生まれ、ほっとできる時間をもつことにつながったこともありました。

臨床美術は利用者にとって、高齢になっても新たな挑戦ができるという励みになっています。その作品を大切に持ち帰り、家族と談笑する姿は、アート作品の持つ力だと確信しています。それは明日への原動力につながります。これから、さまざまな専門家とタッグを組むことで、臨床美術のフィールドが広がっていくと予感しています。その中でも作業療法士との相性は抜群です。目指す想いは臨床美術士も作業療法士も同じです。この想いが広がっていったらいいなと感じています。

【臨床美術士・作業療法士　福満まり子】

＊　＊　＊　＊　＊　＊

◎株式会社　フロー・ライフ
デイサービス　じりつ
〒802-0985
福岡県北九州市小倉南区大字志井 178 番地
TEL　093-965-4727
FAX　093-965-4728
Instagram　#デイサービスじりつ

アートセラピー「臨床美術」とは

絵やオブジェなどの作品を楽しみながら作ることによって脳を活性化させ、高齢者の介護予防や認知症の予防・症状改善、働く人のストレス緩和、子どもの感性教育などに効果が期待できる芸術療法（アートセラピー）のひとつです。

1996 年に医師、美術家、ファミリーケア・アドバイザーがチームとなって実践研究をスタートさせました。医療・美術・福祉の壁を越えたアプローチが特徴の臨床美術は、介護予防事業など認知症の予防、発達が気になる子どもへのケア、小学校の特別授業、社会人向けのメンタルヘルスケアなど多方面で取り入れられ、いきいきと人生を送りたいと願うすべての人へ希望をもたらしています。

◆芸術造形研究所ホームページ
http://www.zoukei.co.jp/
◆日本臨床美術協会ホームページ
http://www.arttherapy.gr.jp/

＊表紙掲載作品＊　アートプログラム名「アジの干物を描く」